

巻頭言

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-07-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 内潟, 安子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/00031893

巻 頭 言

東京女子医科大学第4代糖尿病センター長
 東京女子医科大学第4代内科学（第三）講座教授・講座主任
 東京女子医科大学特任教授・名誉教授
 東京女子医科大学東医療センター病院長

ウチガタ ヤス コ
 内 潟 安 子

東京女子医科大学に奉職して丸30年になる平成29年3月に無事定年を迎えることができました。

「無事之名馬」という作家菊池寛の言葉があります。初代、2代、3代の日本を代表する糖尿病センター長に次ぐ4代糖尿病センター長として重責が双肩にかかっておりましたが、怪我なく無事に走り続けることができました。これは、偏に、初代所長平田幸正名誉教授、2代所長大森安恵名誉教授、3代センター長岩本安彦名誉教授のお残しになった大きな遺産とすばらしい伝統ある医局のお蔭であります。

医局というのは、毎年人の入れ替わりも激しく、伝統というものが引き継がれることなどないだろうと思われるのですが、定年退職した後に、今、東京女子医科大学糖尿病センターをながめてみますと、つかむことのできない、伝統という言葉以外に適切な言葉のない、大きな存在があったことを感じざるを得ません。無事定年を迎えることができたのは、まさしく、お蔭様にて…、であります。

おそらく日本一忙しい糖尿病専門施設が東京女子医科大学糖尿病センターであることに、誰もが頷くことでしょう。その中で、貴重な症例をまとめ、症例であるがゆえの隔靴搔痒の部分に考察を加えたり、また糖尿病センター通院の多くの患者さんの実態を観察研究として長年にわたって行っていくことは、並大抵のことではできません。

その一方で、糖尿病センターにどっぷり漬かっていると、貴重な症例がありふれた症例にも見えたりしてきます。そのような感覚の麻痺(?)のため、報告すべき症例を見逃したことも多々ありました。初代所長平田先生の「症例は逃げない」という名言を何度も反芻したこともありましたが、貴重な症例報告を失ったことは、センター長としてここにお詫び申し上げます。

糖尿病センターに通院していただいている患者さんの貴重な診療実態をどうにかして前向き観察研究として将来にわたって残していきたいという思いは、そのあたりから出てきたものと思います。東京女子医科大学客員教授鎌谷直之先生、膠原病リウマチ痛風センター長山中寿教授、そして全医局員の協力を得て、2012年に、糖尿病センター通院患者さんの糖尿病診療実態の前向き調査研究：Diabetes Study from the Center of Tokyo Women's Medical University (DIACET) をゼロから立ち上げることができました。

DIACETは、私はただ種を撒いただけのことであり、これから医局員が実りを刈り取ることになります。すでに、論文がJournal of Diabetes Complicationに1編、British Medical Journalに1編掲載されました。本記念号には2編が掲載されました。

今後、どんどんと糖尿病センターから多くの研究が発信されることを期待しています。糖尿病センターという医局は、そのような発信ができる、発信していかねばならない義務が課せられた医局なのです。

本記念号が、心新たに、再スタート地点に立つ気持ちを奮い立たせることになれば、望外の喜びです。